

津波想定 Q A

問 1 東通原子力発電所及び女川原子力発電所について、安全審査において津波の影響をどのように評価しているのか。

(答)

1. 安全審査において、敷地周辺で発生した過去の地震及びそれに伴う津波（1960年のチリ地震を含む）の影響を調査し、津波時の海面上昇と下降量を計算し、施設の安全性に影響を与えないことを確認しています。
2. 具体的には、津波の海面上昇時には、満潮時の水位を考慮した最高水位が発電所の敷地の高さを上回らないことを、下降時には、干潮時の水位を考慮しても、原子炉補機冷却系^{※1)}に必要な海水を確保できる^{※2)}ことを確認しています。

※ 1) 原子炉補機冷却系

原子炉補機冷却系は原子炉建屋内のポンプ・モーター等の冷却や残留熱除去系等の冷却を行うもの

※ 2) 東通原子力発電所では、最低水位が取水口レベルを上回ることを、女川原子力発電所では、最低水位が取水口レベルを数分間下回るものの、取水ピット内には約 40 分程度取水可能な海水が貯蔵されていることを確認。

2010年2月28日

千原津波の
対応答要領